

家族と人と家の大切さ

智辯学園中学校 1年 反保 成矢

みなさんは家族と人と家の大切さを感じたことはありますか。

平成29年10月22日、台風21号が和歌山県に上陸しました。その日は家族で京都に出かけていました。帰っている途中、大阪で台風による被害に注意する携帯情報が鳴ったのを覚えています。だから京都からの帰り、父母が家の心配をしていました。ぼくも少し不安な気持ちになっていました。

家に帰ると、祖母が避難所へ行ったと聞きました。けれど、家の近くの用水路はいつもと変わりませんでした。ぼくはのんびりゲームをしていました。しかし数時間後、外に行くと用水路は道と一体化していて、そこに通りがかりのおばさんが自転車で用水路に落ちてしまったのです。自転車ごと落ちたおばさんを父が腰まで水につかって、安全な所につれていきました。幸いおばさんにけがはありませんでした。

しばらくして、和歌山市内に住んでいる姉から心配の電話がありました。母が外の様子を見に行こうとしたら、

「もう玄関まで水がきている。」

と叫びました。その時、電気も止まってしまう、家が真っ暗になりました。ぼくと父母、おじいちゃん慌てて避難する準備をし、家族で、避難所へ向かいました。避難所へ行くと約80人が避難していました。ぼくたちは水が引くまで何もできないので、寝て朝を待つことにしました。

外が明るくなり、父母と家の状況を見に行きました。家はすっかり水につかっていて高い場所からしか見れず2階だけが見えていました。周りの家や道は水でほぼ見えない状態でした。父母、近所の方達もすごくショックを受けていました。

お昼過ぎ、水が引いたので家に行くと、1階はすべて水につかっていて生活できる場所がすべてなくなっていました。母はそれを見て泣いていました。しばらくの間は家に帰

れず、避難所で生活を続けていましたが、ぼくは、学校があったので2週間ほどは友達の家から通わせてもらっていました。家族とはなれて暮らすのは初めてだったのですごくつかれていました。

水がひいてすぐ、大工である父は家の修理にとりかかりました。水に浸かった家は壁や床などをめくって乾かさないとカビが生えてしまいます。大工仲間数人が何日にもかけて必死で手伝ってくれました。泥ですごくよごれている重いタンスをよけてくれました。姉の友達や周りの人達にも協力してもらい2階で生活ができるようになりました。一刻も早く家に住めるようにと思って直してくれていた姿を今でも覚えています。今もまだ1階は間柱がむき出しになっています。2階で家族と生活しています。今までよりも生活がしにくくなり大変ですが、父は休みの日に家を新築のように直してくれています。

今回、水害にあいとても悲しい気持ちになりました。失った物は多いけれどそれ以上にぼくたち家族が得た物も多いと思います。家族と協力しあい、周りの人たちに助けられ、家族や人の大切なのかも気付きました。

これから先、大変なことが起こると思いますが周りの人と一致団結して乗り越えていけると思います。ぼくも、父の大工仲間の人たちのように、人を助ける技術をもつ人に成長したいです。

父はこの前、疲れて倒れてしまい、少し入院していました。その時ぼくはさみしい気持ちになりました。今は元気になってくれたので、父の負担をへらせるように、今の自分でもできることを探してやっていきたいです。大切な家と家族のために。